

**調査報告**

**被災地寺院の教訓を  
今後の寺院防災に活かす聞き取り票  
(アンケート調査)**

**報告書**

平成 27 年 6 月

**監修**

公益財団法人 全日本仏教会  
日本仏教社会福祉学会  
仏教 NGO ネットワーク (BNN)

**編著**

日本仏教社会福祉学会  
東日本大震災対応プロジェクト委員会  
淑徳大学 藤森雄介研究室

## 目次

1	はじめに .....	3
2	アンケート報告 .....	3
1.	基本属性について .....	3
2.	東日本大震災に際しての被災・活動状況について .....	5
3	まとめ .....	30
資料	被災地寺院の教訓を今後の寺院防災に活かす聞き取り票項目 .....	34

## 1 はじめに

本調査報告は、仏教 NGO ネットワークが聞き取り調査をおこなったものを集計し、テキストデータ化した。集計に当たり、非公開を希望している寺院もあり、2013年5月までに接受している34寺院の単純集計とコメントをまとめた。

記載順は、入力 No 順になっている。

## 2 アンケート集計

### 1. 寺院 基本属性について

#### ①公開寺院一覧

No	都道府県	宗派	寺院名
1	岩手県	高野山真言宗	釜石教会(駒木山不動寺)
2	宮城県	浄土宗	西念寺
3	岩手県	浄土宗	大念寺
4	宮城県	浄土宗	定迎寺
5	宮城県	浄土宗	浄念寺
6	茨城県	浄土宗	香仙寺
7	宮城県	真言宗智山派	普誓寺
8	宮城県	真言宗智山派	光明寺
9	岩手県	真言宗智山派	金剛寺
10	岩手県	真言宗智山派	長圓寺
11	福島県	真宗大谷派	麟生寺
13	宮城県	曹洞宗	龍澤寺
14	岩手県	曹洞宗	龍昌寺
15	宮城県	曹洞宗	保福寺
16	宮城県	曹洞宗	照源寺
17	宮城県	曹洞宗	海蔵寺
18	宮城県	曹洞宗	青龍寺
19	宮城県	曹洞宗	鳳寿寺
20	宮城県	曹洞宗	法昌寺
21	宮城県	曹洞宗	清水寺
22	宮城県	日蓮宗	法音寺
23	富山県	日蓮宗	真成寺
24	岩手県	日蓮宗	本増寺
25	宮城県	臨済宗妙心寺派	慈恩院
27	福島県	臨済宗妙心寺派	龍光寺
29	宮城県	臨済宗妙心寺派	松林寺
30	宮城県	臨済宗妙心寺派	傑山寺
31	福島県	臨済宗妙心寺派	長松寺
32	岩手県	臨済宗妙心寺派	華藏寺
33	岩手県	臨済宗妙心寺派	慈恩寺
34	宮城県	曹洞宗	法山寺

## ②非公開寺院一覧

No	都道府県	宗派	寺院名
12	宮城県	曹洞宗	大永寺
26	宮城県	臨済宗妙心寺派	濟北寺
28	宮城県	臨済宗妙心寺派	淨福寺

公開を希望しない寺院の記載に関しては、統計データとしての数値以外は掲載していない。

## 2. 東日本大震災に際しての被災・活動状況について

2-1 貴寺院および周辺地域の被災状況をお教えてください。（ご記憶の範囲で結構ですの  
で、できるだけ詳しくお教え頂ければ幸いです）

No	都道府県	宗派	寺院名	記載内容
1	岩手県	高野山真言宗	釜石教会 (駒木山 不動寺)	当教会は石垣が多少崩れた事と、建物内の古い部屋の床が抜けた位ですんだ。当教会が町内会長をしている駒木不動沢町内では物理的被災(特に津波の影響)は殆どなかったが、町内前の市道は津波が逆流してきて、町内用の鉄製のゴミ箱は流された。
2	宮城県	浄土宗	西念寺	・庫裏、離れ大規模崩壊 ・本堂玄関、仏像半壊 ・人天蓋落下 ・水回り、台所、風呂、トイレの床下、一部45センチ地盤沈下 ・井戸からポンプを使って水をくみ上げていたが全壊 ・庫裏に北側やや崩れ、深さ1mほどの地割れ ・庫裏、離れ、余震で3回程各下水溝を修理する(ボリボリ折れる)。 ・地盤沈下による水道濾水(大変な損壊で3日程かかった) ・U字溝バラバラ ・墓地内の道路地割れ ・墓石は全体の80%が一部損壊、全半壊 ・水子地藏尊半壊 ・門柱がやや傾く
3	岩手県	浄土宗	大念寺	寺院以外は全て津波で破壊され、4日間火の海。
4	宮城県	浄土宗	定迎寺	海より5~6キロメートル離れており、食器等の破損はあったが大丈夫であった。
5	宮城県	浄土宗	浄念寺	14.5mの高波襲来。油タンク重油24基焼失のため2日間大火災で、檀家の6割450軒が家屋消滅。本堂に250名余りが、3月11日夜より3ヶ月、6月11日まで避難所として利用させた。市全体で約3000戸が仮設住宅暮らし。その後の支援のあり方、募金の仕方等。
6	茨城県	浄土宗	香仙寺	道路の陥没 塀の倒壊 地盤沈下 瓦の散乱
7	宮城県	真言宗智山派	普誓寺	被災状況;寺院建物全壊(本堂、庫裏、護摩堂)、観音堂は津波により流失。墓地は90%以上倒壊。檀信徒全体の三分の二が被災。その内、四分之三が避難生活を送る。周辺地域では死者約500名。家屋は津波により流失多数。自宅避難者への救援物資の配布活動及び支援。
9	岩手県	真言宗智山派	金剛寺	寺のあった町は「気仙町」で今泉地区になります。戸数は500戸位の町です。津波は13~15mだったので、山手側の民家数戸と高台の神社、寺院を残すのみで、金剛寺本堂も流出しがレキとなりました。 当寺院は高台の聖天堂、気仙成田不動堂が残りました。かなりの住民が裏山の高台や、神社、寺院の高台に避難しましたが、死者、行方不明者もかなりでました。
10	岩手県	真言宗智山派	長圓寺	海拔の低い地域は壊滅。ライフラインの喪失。橋の崩落により移動が困難。

11	福島県	真宗大谷派	麟生寺	地震による被害は屋根瓦の落下や建物の壁に亀裂が等があったものの、人的な被害は無かった。 しかし、原発事故が日に日に深刻な状況であることが明らかになり、特に小さい子どもを持つ家族に不安が広がった。徐々に自主避難する人が増えた。
13	宮城県	曹洞宗	龍澤寺	檀信徒 156 戸流出。この内家族を亡くした家 31 戸、43 名死亡。お寺ともう 1 戸残った家に避難。お寺には約 60 名が 7 月初めまで居た。電気は無し、ガスはプロパンなのでそのまま使えた。田舎なので良かった。水道も山からの自家水だったので使えた。トイレも同じにくみ取り式なので使えた。食料も備蓄していたので、支援が来るまで間に合った。各地区で助かった家に一時避難できた。
14	岩手県	曹洞宗	龍昌寺	当山近隣地域 150 戸のところ 40 戸被災する。檀家 350 戸のうち 130 戸被災しました。当初は避難所ではなかったが、流され水浸しになった老人などを受け入れた。すぐ婦人会が集まり、寺の三升釜で何回もご飯を炊き、皆に食べさせた。当寺には御齋用のプロパンガス釜があり、100 名以上の炊事にも充分対応できました。
15	宮城県	曹洞宗	保福寺	周辺地域はほぼ全壊。自坊のみ高台にあったため、地域の緊急避難場所になっていることもあり、避難所となりました。犠牲者は約 100 人。
16	宮城県	曹洞宗	照源寺	・女川の被害状況；最大津波 14.8m(港湾・空港技術研究所調査)、浸水区域 320ha(国土交通省被災状況調査)、被害区域 240ha(宮城県発表) ・人的被害(平 24/3/11 現在町人口 10,014 名)；死者 526 名(平 24/6/20 現在)、死亡認定者 292 名(不明者中死亡届受理者)、行方不明者他 13 名 ・一般住宅被害数(町総数 4,411 棟)；全壊 2,942 棟(66.3%)、大規模半壊 146 棟(3.3%)、半壊 201 棟(4.6%)、一部損壊 663 棟(15%) ・お寺は、津波は免れましたが本堂と庫裏の間に口が開き、外が見え風雨が入る状態。瓦 300 枚落ち、境内陥没。
17	宮城県	曹洞宗	海蔵寺	海から約 1 キロ離れた高台に位置する寺院であるが、震災により海岸周辺の家屋はほとんど流出し、約 2 ヶ月間寺院庫裏に 100 名の避難者が生活を共にする。寺の駐車場下 30 メートル付近まで、家屋、車、人も流されて、道路も寸断され、景色が嘘のような状態だった。
18	宮城県	曹洞宗	青龍寺	お寺の玄関前まで津波が来ました。避難していた約 40 名以上はそのまま避難し、自動的に避難所となった。周辺(門前)は殆ど 1 階天井か 2 階まで浸水状態で、この日から 2 ヶ月間避難所となった。

19	宮城県	曹洞宗	鳳寿寺	七里ヶ浜町全体として、津波で三分の一が被災(家屋)。97名が死亡。特に太平洋に面した地区は被害が甚大。私の地区は、松島湾に面した内海なので、全壊5軒、大規模半壊が27軒、半壊多数と被害は少なかった。死者は、勤務先で5名の方がなくなられた。
20	宮城県	曹洞宗	法昌寺	東松島市 HP より(人口約4万2千人)被害状況 ●人的被害(11/11現在);遺体収容者1,047人 市民死者数998人(内市内での被災913人) 行方不明者69人 市民計1,067人(約3%) ●家屋被害(10/11現在);全壊世帯5,443棟 大規模半壊3,044棟 半壊世帯2,451棟 計10,938棟(約70%) ●流出・水没車両;約11,000台●避難者(最大);約2万人 ●避難所(最大)約100カ所(他市町分含む)
21	宮城県	曹洞宗	清水寺	檀徒の70%が全壊流出(檀徒数76戸) 死者3名 行方不明者6名
22	宮城県	日蓮宗	法音寺	23年9月現在です。死者数:3170 行方不明者数:759 住宅、建物被害(全壊数+半壊数):22419 他、地盤沈下による浸水等多数
23	富山県	日蓮宗	真成寺	特にございませんでした。
24	岩手県	日蓮宗	本増寺	大船渡湾に面しているの被害は大きい。人口4万人の市で死亡、行方不明者421名。全壊2784世帯。大規模半壊428世帯。半壊716世帯。
25	宮城県	臨済宗妙心寺派	慈恩院	地震による被害は僅かで、墓石も殆ど倒れなかったが、近所で火災が発生した。その後の津波により、瓦礫や車が流れてきて本堂や庫裏に入り、家屋は全壊し、墓石の半数が倒れ、20台ほどの車が墓石に乗り上げた。また、何体かの遺体が境内で見つかった。
27	福島県	臨済宗妙心寺派	龍光寺	当山では本堂大規模崩壊、庫裏半壊。町内の津波被害約500戸。死亡/不明者約70名。
29	宮城県	臨済宗妙心寺派	松林寺	私のお寺は大きな被害はありません。裏山の岩が崩れたり、位牌が落ちた位ですが、檀信徒の方が5人位亡くなりました。今現在、一人の方が見つかっておりません。自宅を流された方が、35軒位あり仮設住宅や、町の方の仮設、アパートに引っ越しております。
30	宮城県	臨済宗妙心寺派	傑山寺	本堂丸柱亀裂。観音堂全壊。橋桁倒壊。墓倒壊80%。
31	福島県	臨済宗妙心寺派	長松寺	東日本大震災に於いては、それほどの被災はありませんでしたが、長松寺は福島第一原発事故により19km内のため、放射能のため地域はすべて避難を余儀なくされ、現在も住む状態ではありません。
32	岩手県	臨済宗妙心寺派	華藏寺	住所にあります小友町の約半数が全壊、半壊、部分壊という状況です。檀信徒の方80名が死亡、行方不明です。山門まで津波が来ましたが、建物には被害がありませんでした。よって当然ながら避難所となりました。
34	宮城県	曹洞宗	法山寺	不明

## 2-2-1 貴寺院のライフラインは何日で復旧しましたか？(それぞれに日数をお書きください)

No	都道府県	宗派	寺院名	① 水道	② 電気	③ ガス	④ 携帯電話 通信手段
1	岩手県	高野山真言宗	釜石教会 (駒木山不動寺)	7	5	未記入	未記入
2	宮城県	浄土宗	西念寺	30	11	未記入	10
3	岩手県	浄土宗	大念寺	40	40	40	60
4	宮城県	浄土宗	定迎寺	7	7	未記入	4
5	宮城県	浄土宗	浄念寺	61	46	31	未記入
6	茨城県	浄土宗	香仙寺	6	5	未記入	6
7	宮城県	真言宗智山派	普誓寺	120	150	180	8
8	宮城県	真言宗智山派	光明寺	54	26	15	7
9	岩手県	真言宗智山派	金剛寺	未記入	未記入	未記入	10
10	岩手県	真言宗智山派	長圓寺	90	60	未記入	10
11	福島県	真宗大谷派	麟生寺	未記入	2	未記入	未記入
13	宮城県	曹洞宗	龍澤寺	未記入	70	未記入	45
14	岩手県	曹洞宗	龍昌寺	14	28	未記入	5
15	宮城県	曹洞宗	保福寺	30	50	未記入	40
16	宮城県	曹洞宗	照源寺	26	30	30	90
17	宮城県	曹洞宗	海蔵寺	20	20	未記入	3
18	宮城県	曹洞宗	青龍寺	50	30	未記入	10
19	宮城県	曹洞宗	鳳寿寺	15	17	未記入	35
20	宮城県	曹洞宗	法昌寺	16	16	未記入	50
21	宮城県	曹洞宗	清水寺	100	56	82	未記入
22	宮城県	日蓮宗	法音寺	20	10	未記入	10
23	富山県	日蓮宗	真成寺	未記入	未記入	未記入	未記入
24	岩手県	日蓮宗	本増寺	15	15	1	15
25	宮城県	臨済宗妙心寺派	慈恩院	37	130	170	7
27	福島県	臨済宗妙心寺派	龍光寺	30	2	30	30
29	宮城県	臨済宗妙心寺派	松林寺	53	46	未記入	未記入
30	宮城県	臨済宗妙心寺派	傑山寺	10	13	未記入	7
31	福島県	臨済宗妙心寺派	長松寺	未記入	未記入	未記入	未記入
32	岩手県	臨済宗妙心寺派	華藏寺	未記入	20	未記入	20
33	岩手県	臨済宗妙心寺派	慈恩寺	50	30	未記入	未記入
34	宮城県	曹洞宗	法山寺	40	30	未記入	20

表 1-1 ライフライン復旧までの日数

	水道復旧日数	電気復旧日数	ガス復旧日数	通信手段復旧日数
最小値	6	2	1	3
最大値	120	150	180	90
平均値	37.03	33.91	58.60	21.07

表 1-2 ライフライン復旧までの日数

日数	水道	電気	ガス	携帯電話
0-3	0	2	1	1
4-7	2	3	1	7
8-13	1	4	0	6
14-20	7	5	0	4
21-30	5	9	2	2
31-50	6	5	2	4
51-	6	5	3	2

問 2-2 では、被災地寺院のライフラインの復旧日数について尋ねたものであり、最も早く水道が復旧した日数は震災 6 日後であり、最も遅く水道が復旧したのが震災 120 日後であり、水道復旧の平均日数は震災 37 日後であった。

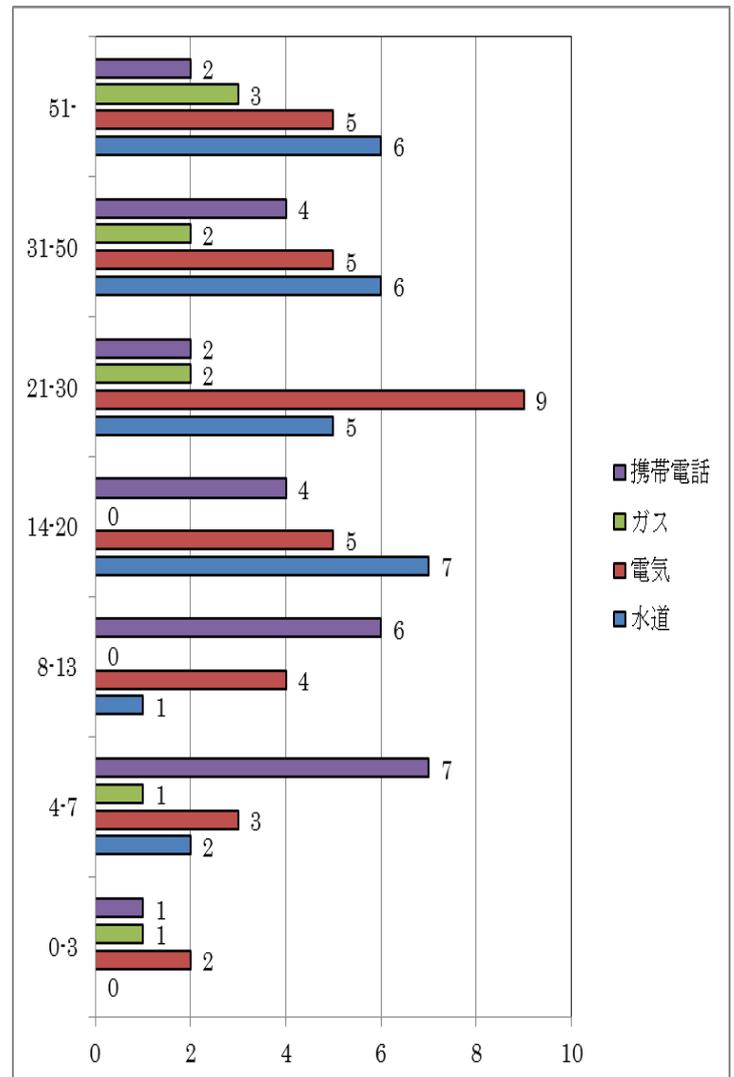
最も早く電気が復旧したのは震災 2 日後であり、最も遅く電気が復旧したのが震災 150 日後であり、電気復旧の平均日数は震災 34 日後であった。

最も早くガスが復旧したのは震災 1 日後であり、最も遅くガスが復旧したのが震災 180 日後であり、ガス復旧の平均日数は震災 59 日後であった。

最も早く携帯電話などの通信手段が復旧したのは震災 3 日後であり、最も遅く通信手段が復旧したのは震災 180 日後であり、通信手段復旧の平均日数は震災 21 日後であった。

また、水道、電気、ガス、通信手段の全ての復旧平均日数は 37.7 日であった。

さらに、被災地寺院が避難所としての役割を果たしていた期間（問 2-5②）が最も短かった 1 日というのは、まだライフラインの復旧がほとんどなされない中での閉鎖だったことが明らかとなり、開設期間が最も長かった 152 日というのは、ガスを除くライフラインの復旧がなされてからの閉鎖であったことが分かる。また、避難所としての開設平均日数は 54.8 日であり、ライフラインすべての復旧平均日数が 37.7 日であったことから、避難所の併設の目安はライフラインの復旧であったものと推察される。



## 2-3 外部からの支援は何日後から始まりましたか？

## 2-4 被災された方々を避難所として直接受け入れましたか？

No	都道府県	宗派	寺院名	① 自衛隊など 公的支援	② 民間ボラ ンティア	③ 宗派関係	2-4 被災された方々 を避難所として 直接受け入れま したか？
1	岩手県	高野山真言宗	釜石教会 (駒木山不動寺)	未記入	17	13	公設(指定)
2	宮城県	浄土宗	西念寺	20	14	20	いいえ
3	岩手県	浄土宗	大念寺	21	30	25	公設(指定)
4	宮城県	浄土宗	定迎寺	未記入	未記入	未記入	私設(自主)
5	宮城県	浄土宗	浄念寺	1	1	10	公設(指定)
6	茨城県	浄土宗	香仙寺	未記入	5	未記入	私設(自主)
7	宮城県	真言宗智山派	普誓寺	1	30	20	公設(指定)
8	宮城県	真言宗智山派	光明寺	3	20	60	いいえ
9	岩手県	真言宗智山派	金剛寺	7	3	13	私設(自主)
10	岩手県	真言宗智山派	長圓寺	3	5	10	私設(自主)
11	福島県	真宗大谷派	麟生寺	未記入	未記入	14	私設(自主)
13	宮城県	曹洞宗	龍澤寺	3	5	36	公設(指定)
14	岩手県	曹洞宗	龍昌寺	5	10	5	私設(自主)
15	宮城県	曹洞宗	保福寺	4	7	14	公設(指定)
16	宮城県	曹洞宗	照源寺	3	14	20	私設(自主)
17	宮城県	曹洞宗	海蔵寺	3	3	7	私設(自主)
18	宮城県	曹洞宗	青龍寺	5	7	15	公設(指定)
19	宮城県	曹洞宗	鳳寿寺	1	12	45	公設(指定)
20	宮城県	曹洞宗	法昌寺	4	50	120	私設(自主)
21	宮城県	曹洞宗	清水寺	21	51		私設(自主)
22	宮城県	日蓮宗	法音寺	4	8	15	公設(指定)
23	富山県	日蓮宗	真成寺	未記入	未記入	未記入	私設(自主)
24	岩手県	日蓮宗	本増寺	3		3	公設(指定)
25	宮城県	臨済宗妙心寺派	慈恩院	5	5	50	私設(自主)
27	福島県	臨済宗妙心寺派	龍光寺	5	60	30	私設(自主)
29	宮城県	臨済宗妙心寺派	松林寺	3	30	7	公設(指定)
30	宮城県	臨済宗妙心寺派	傑山寺	未記入	未記入	未記入	私設(自主)
31	福島県	臨済宗妙心寺派	長松寺	未記入	未記入	未記入	いいえ
32	岩手県	臨済宗妙心寺派	華蔵寺	3	3	5	私設(自主)
33	岩手県	臨済宗妙心寺派	慈恩寺	3	未記入	5	公設(指定)
34	宮城県	曹洞宗	法山寺	5	6	20	私設(自主)

※2-4の設問「被災された方々を避難所として直接受け入れましたか？」の「いいえ」の回答は受け入れられない状況であったためである。

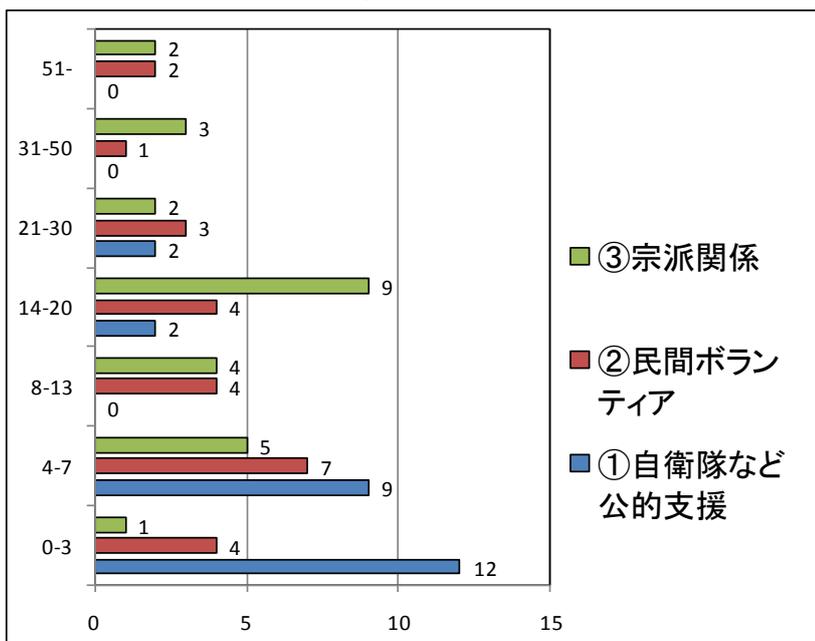
表 2-1 外部からの支援は何日後から始まりましたか

	問 2-3①	問 2-3②	問 2-3③
最小値	1	1	3
最大値	21	60	120
平均値	6	16.16	23.03

表 2-2 外部からの支援は何日後から始まりましたか

日数	①自衛隊など 公的支援	②民間ボランティア	③宗派関係
0-3	12	4	1
4-7	9	7	5
8-13	0	4	4
14-20	2	4	9
21-30	2	3	2
31-50	0	1	3
51-	0	2	2

図 2-2 外部からの支援は何日後から始まったか



問 2-3 は、外部からの支援が開始された日について問う質問であり、「①自衛隊など公的支援」が最も早く開始されたのは、震災後 1 日であり、最も遅く開始されたのが震災から 21 日後であり、平均すると震災後 6 日後であった。「②民間ボランティア」が最も早く開始されたのは震災後 1 日後であり、最も遅く開始されたのは震災後 60 日後、平均すると震災後 16 日後であった。「③宗派関係」による支援が最も早く開始されたのは、震災後 3 日後であり、最も遅く開始されたのは震災後 120 日後であり、平均すると 23 日後であった。

この結果をみると、「①自衛隊など公的支援」「②民間ボランティア」に対して「③宗派関係」は最も早く開始された日数も、開始された平均日数も遅く、最も遅く開始された日数に至っては、震災後 4 カ月経過してからの支援開始となり、宗派関係の支援開始の遅れ、また震災対応の遅さが明確となった。

また、「宗派関係」の支援開始の日数と、問 2-2 のライフラインの復旧日数を比較してみると、水道、電気、ガス、通信手段を総合した復旧平均日数が 37.7 日後であったのに対し、宗派関係の支援開始の平均日数は 23 日後であった。さらに、宗派関係の支援が最も早かった震災 3 日後では、復旧が早い所では、水道以外の電気、ガス、通信手段の復旧が開始された時期でもあり、宗派関係の支援の開始が最も遅かった震災 120 日後は、アンケートにご回答いただいた全ての被災地寺院の水道と通信手段が復旧していた状況にあったことが明らかとなった。別の視点から見ると、宗派関係の支援も「自衛隊など公的支援」や「民間ボランティア」の支援よりも支援開始時期が遅いとはいえ、ライフラインの復旧が完全ではない中で、支援が開始されていたことが明らかとなった。

## 2-5 受け入れた被災された方々について

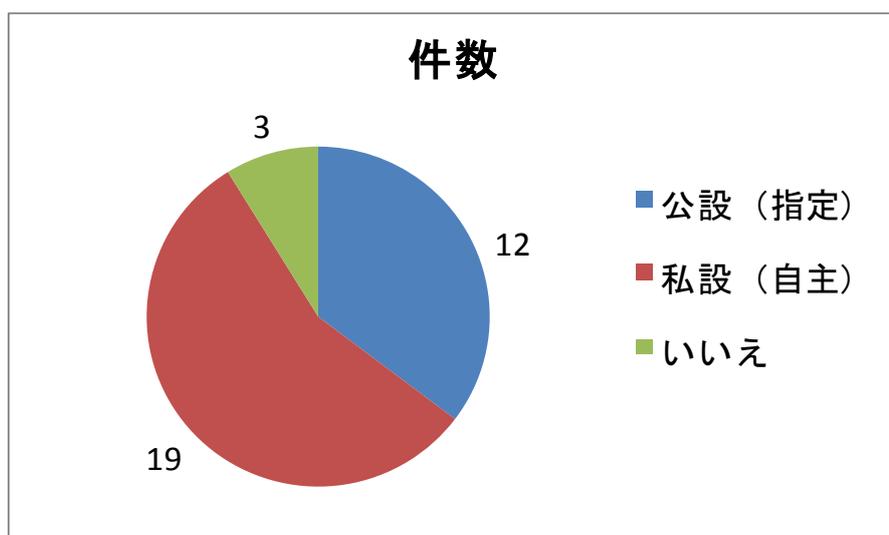
No	都道府県	宗派	寺院名	①最も多かった時で何名でしたか？	宿泊者数	檀家割合(%)	②開設日	閉設日	期間
1	岩手県	高野山真言宗	釜石教会 (駒木山不動寺)	10	0	100	2011/03/11	2011/03/11	1
2	宮城県	浄土宗	西念寺	未記入	未記入	未記入	未記入	未記入	未記入
3	岩手県	浄土宗	大念寺	30	30	60	2011/03/15	2011/08/13	152
4	宮城県	浄土宗	定迎寺	6	6	0	2011/03/12	2011/04/09	29
5	宮城県	浄土宗	浄念寺	250	250	30	2011/03/11	2011/06/11	93
6	茨城県	浄土宗	香仙寺	40	35	1	2011/03/11	2011/03/14	4
7	宮城県	真言宗智山派	普誓寺	30	0	21	未記入	未記入	未記入
8	宮城県	真言宗智山派	光明寺	未記入	未記入	未記入	未記入	未記入	未記入
9	岩手県	真言宗智山派	金剛寺	80	10	50	2011/03/11	2011/07/31	143
10	岩手県	真言宗智山派	長圓寺	270	270	3	2011/03/11	2011/03/24	14
11	福島県	真宗大谷派	麟生寺	30	30	0	2011/03/12	2011/03/19	8
13	宮城県	曹洞宗	龍澤寺	60	60	100	2011/03/11	2011/07/04	116
14	岩手県	曹洞宗	龍昌寺	120	120	90	2011/03/11	2011/04/08	29
15	宮城県	曹洞宗	保福寺	230	230	95	2011/03/11	2011/05/20	71
16	宮城県	曹洞宗	照源寺	30	30	80	2011/03/11	2011/08/04	147
17	宮城県	曹洞宗	海蔵寺	100	100	80	2011/03/11	2011/05/07	58
18	宮城県	曹洞宗	青龍寺	45	45	50	2011/03/11	2011/05/10	61
19	宮城県	曹洞宗	鳳寿寺	132	未記入	95	2011/03/11	2011/03/26	16
20	宮城県	曹洞宗	法昌寺	30	30	50	2011/03/11	2011/04/22	43
21	宮城県	曹洞宗	清水寺	100	80	50	2011/03/11	2011/04/05	26
22	宮城県	日蓮宗	法音寺	150	100	25	2011/03/11	2011/06/09	91
23	富山県	日蓮宗	真成寺	未記入	未記入	未記入	未記入	未記入	未記入
24	岩手県	日蓮宗	本増寺	100	70	10	2011/03/11	2011/03/25	15
25	宮城県	臨済宗妙心寺派	慈恩院	15	15	40	2011/04/01	2011/07/24	115
27	福島県	臨済宗妙心寺派	龍光寺	80	80	50	2011/03/11	2011/03/15	5
29	宮城県	臨済宗妙心寺派	松林寺	45	未記入	30	2011/03/11	2011/03/28	18
30	宮城県	臨済宗妙心寺派	傑山寺	10	未記入	未記入	2011/03/11	2011/03/16	6
31	福島県	臨済宗妙心寺派	長松寺	0	0	0	未記入	未記入	未記入
32	岩手県	臨済宗妙心寺派	華蔵寺	200	200	70	2011/03/11	2011/05/05	56
33	岩手県	臨済宗妙心寺派	慈恩寺	100	70	100	2011/03/11	2011/07/04	116
34	宮城県	曹洞宗	法山寺	530	530	10	2011/3/11	2011/05/11	60

表3 外部からの支援は何日後から始まりましたか

	最大受入人数	宿泊者数	檀信徒割合
最小値	0	0	0
0を除く最小値	6	5	1
最大値	530	530	100
平均値	93.74	87.82	44.88

\* 「檀信徒割合」については、質問用紙では割合（％）を訊いているが、その回答をみると割合ではなく人数が記入されていると思われるものがあり、それについては、報告書として掲載する段階で人数から割合に変更した。

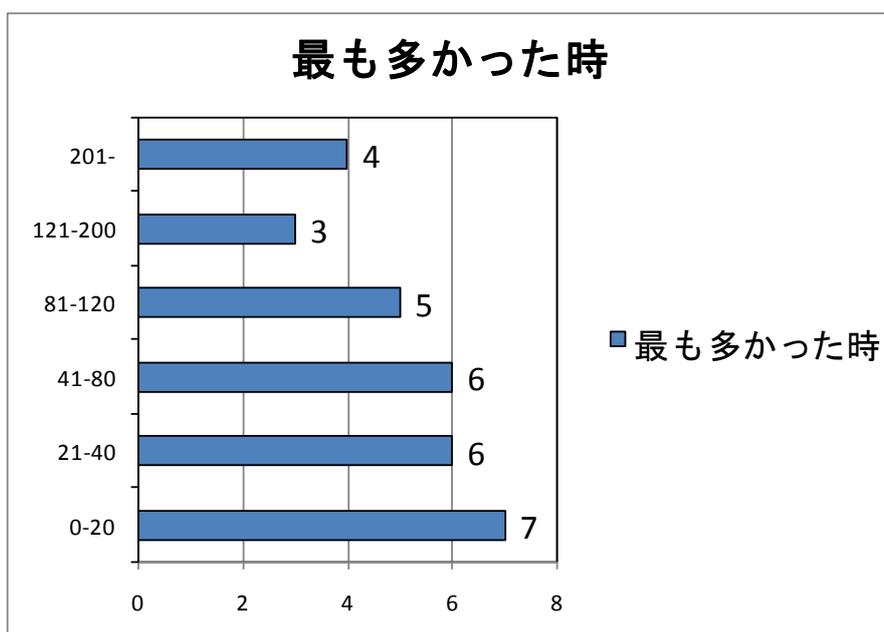
図3-1 避難所としての指定の有無（件）



問2-5は、問2-4で「①公的（指定）避難所となって受け入れた」「②私設（自主）避難所として受け入れた」に回答した寺院に対して尋ねた問題である。

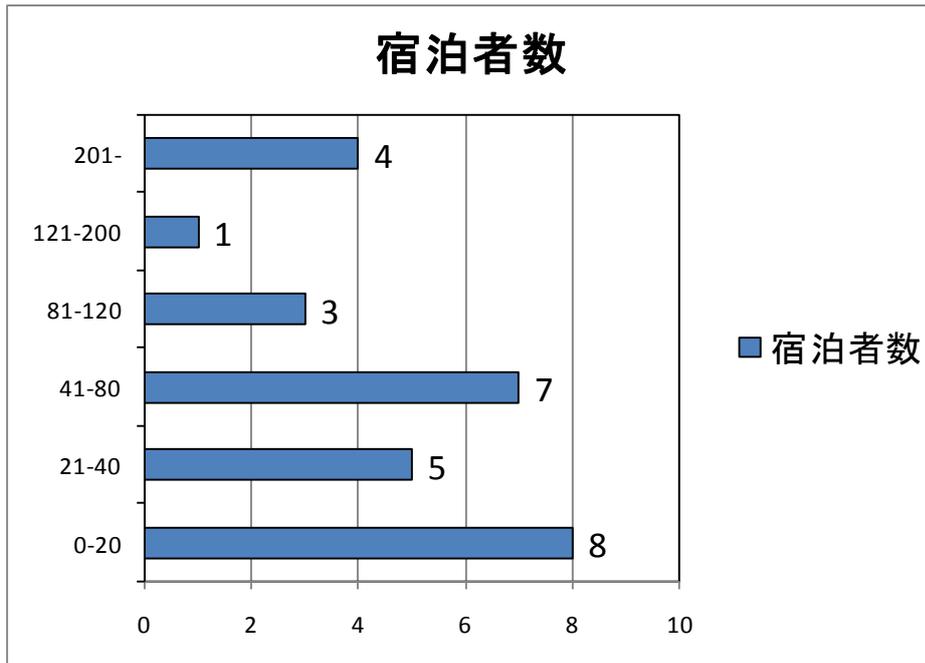
問2-5①では受け入れた最大被災者数を問う質問であり、最も受入人数が少なかった寺院（0を除く最小値）での受入人数は6名であり、最も受入人数が多かった寺院（最大値）での受入人数は530名であり、その平均は約94名であった。

図3-2 最大受け入れ数（人）



問2-5①の受入最大人数のうち、宿泊者の人数を質問したものでは、最も宿泊者数が少なかったものは0名であり、更に0を除く最小人数では5名であり、最も宿泊者数が多かったものは530名であり、その平均は約88名であった。

図3-3 最大宿泊者数（人）



問2-5①の受入人数のうち、檀信徒の割合について質問したものでは、質問用紙では割合(%)を訊いているが、その回答をみると割合ではなく人数が記入されていると思われるものがあり、それについては、報告書として掲載する段階で人数から割合に変更した。その上で結果をみると、最も檀信徒の割合が少ない数値は1%であり、最も檀信徒の割合が多い数値は100%であり、その平均は44.88%であった。

この問2-5①の質問では、問2-4で「①公的(指定)避難所となって受け入れた」「②私設(自主)避難所として受け入れた」に回答した寺院に対して尋ねた問題であるにもかかわらず、最大受入人数、宿泊者数、檀信徒の割合ともに「0」と回答したものや、先にも述べたが、檀信徒の割合を訊いた者に対して人数で回答してあるものなど、本来のアンケート調査集計のセオリーでは誤記入として処理される回答について、今回のアンケートでは母数が少ないこともあり、最大限に記入者を尊重して集計を行った。

問2-5②では、被災地寺院が避難所として機能していた期間について問う質問であり、開設日が最も早いのは2011年3月11日の震災当日であり、開設が最も遅かったのは4月1日であった。

また、いつまで開設していたのかを問う質問では、最も早く閉鎖したのは3月11日の震災当日であり、最も遅く閉鎖したのは8月13日であり、避難所として機能していた日数では、最もその期間が短かったのは1日であり、最長152日間であり、その平均は54.8日であった。

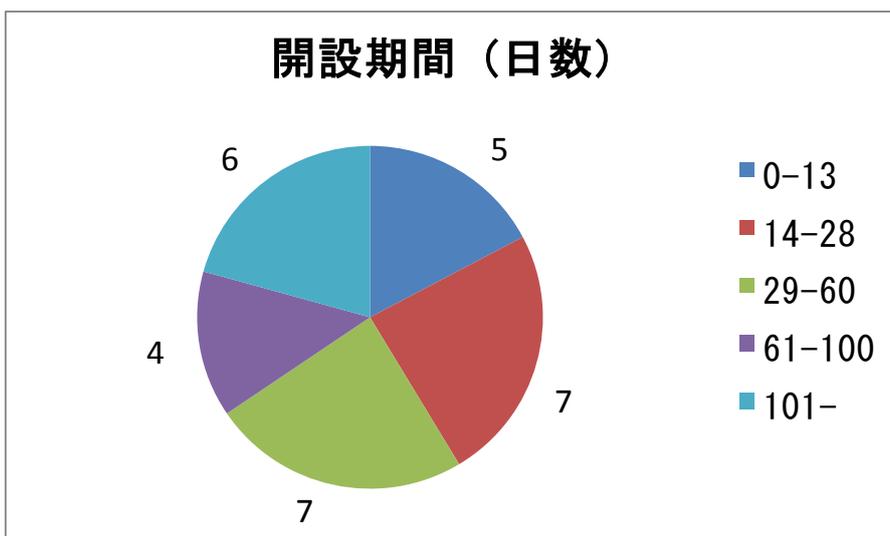


図3-4 避難所開設期間

- 2-5-3 避難所としての運営で苦労されたことは何でしたか？(食事・睡眠・トイレや、運営のルール作り、行政との調整、心の問題など)
- 2-5-4 避難された方々の中で、特に弱者(子ども、高齢者、障がい者、外国人など)に対して気遣いや配慮されたことがあればお書きください。
- 2-5-5 この度のご経験からお寺で備蓄・準備していて良かったもの。または備えておけば良かったものは何でしたか？

No	都道府県	宗派	寺院名	2_5_3 避難所としての運営 で苦労されたこと(記 述)	2_5_4 特に弱者(子ども、 高齢者、障がい 者、外国人など)に 対して気遣いや配 慮(記述)	2_5_5 お寺で備蓄・準備して良 かったもの。または備えてお けば良かったもの (記述)
1	岩手県	高野山 真言宗	釜石教会 (駒木山 不動寺)	未記入	未記入	・食料品(乾物類、缶詰 類)、灯油、蠟燭。 ・食糧に関しては調理する 能力があるかないかで、大 きな差が出る。 ・要は物資を揃えることも大 切だが、危機対応能力が あるマンパワー(人材)があ るかないかで大差が出る。 ・うちの場合は幸い不自由 したものはなかった。
3	岩手県	浄土宗	大念寺	風呂(自衛隊の湯に 入浴したのが5週間 後)。トイレ(上下水 道が破壊されたた め)。	高齢者の薬な ど。	米、水、缶詰、調味料、寝 具が不足。
4	宮城県	浄土宗	定迎寺	食糧不足	子どもに不安を 与えないようにし た。	非常時における水、食料
5	宮城県	浄土宗	浄念寺	市との連絡がうまく いかない。支援食料 も3日来ないので、 寺のもので小粥など をして2日間支えた。	死別など心のケ アに大正大学の ボランティア、佛 教大学の心のケ アに学生、教授 達が寺院に寝泊 まりして、心のケ アをしてくれて助 かりました。	備蓄のものは何もなかつ た。引き出物の毛布など 250枚、シーツ等など支え た。
6	茨城県	浄土宗	香仙寺	トイレの問題	乳幼児がいたた め、ミルク(水の 確保)が問題だ った。	発電機(情報) 仮設トイレ 水(ペットボトル)

7	宮城県	真言宗 智山派	普誓寺	ライフラインが滞り、物資の確保が大変だった。行政では物資は避難所で、と言うのですが、自宅避難者へは物資が回らない状況が続き、寺も被災したが、そういった方々への支援を行った。また、周辺は汚泥と瓦礫で困われ、ライフラインが復旧できず心身共に辛い日々を送っている。(先が見えない不安)	辛い日々の中、心の不安を少しでも楽になれるよう「笑顔」になるように努めた。	水の備え、着る物、毛布、ライトの備え。非常食(チョコ、乾パン等。飴)
9	岩手県	真言宗 智山派	金剛寺	まだ寒かったので、暖を取るのが大変だった。電気が暫くなかった(後から発電機をもらって明かりや、炊飯、洗濯ができた)ので薪等、手作業が大変だった。水の確保と情報の入手も。	子ども、高齢者や歩いて隣町の避難所(公民館)にいける人は、山越えの位置を歩き移動した。自衛隊のヘリで高齢者を搬送した。	以前より宮城県沖地震が予想されていたので米、水、テント、ガスコンロ(カセット)、蠟燭、電池、ラジオ、寝袋等を高台の不動堂に置いていたので良かった。
10	岩手県	真言宗 智山派	長圓寺	食事・睡眠・トイレ・ルール作り・行政との調整・心の問題のすべて。医薬品の不足	高齢者のエコノミー症候群予防、常服薬不足(血圧、心臓の薬等)	毛布、米、蠟燭、水、トイレトペーパー、電池、ラジオ。
11	福島県	真宗 大谷派	麟生寺	食事の準備、食糧の確保、寒さ対策、寝具の確保、水洗トイレの水の確保。	持病を持った人や高齢者の病院や薬の手配。	米、食器、保存食(山菜や漬け物等)、毛布。備えておけば良かった物;電気を使わない石油ストーブ、木炭、発電機。
13	宮城県	曹洞宗	龍澤寺	同じ行政区(同地区)の人たちばかりであったので、自主的に家族のように協力、生活できたと思う。	特に高齢者トイレの介助(お世話)は難しいところがあった。	ある程度の食料品(特に米)は良かった。寒い時期であったので、普通石油ストーブも4台有ったので助かった。それでもブルーヒーターが使えればもっと助かったと思うので、発電機器、ソーラーなど。

14	岩手県	曹洞宗	龍昌寺	多数なのでトイレ使用が大変だった。行政への調整は地区自治会が担当でした。地域の医師の巡回もあり、心の問題はあまり感じられなかったが、一人一人には不安があったようです。(今後の生活について)	子どもについて保育所と小学校の先生も一緒に宿泊していたので特に問題はなかった様に思われます。(保育所、小学校、中学校で30人位)高校生も何人か宿泊していました。高齢者はオムツの問題で苦労しました。(不足していた)	米、布団、毛布など備蓄していて良かった。灯油も200リットル入れたばかりだったので、暖房には不自由なく使えた。ストーブも反射式ストーブが8台あったので、寒さには少々対応できました。お寺に一つ発電機があれば良かったなと思っています。
15	宮城県	曹洞宗	保福寺	女性同士のいざこざなどがあったので、食事を当番制に班に分けた。避難所を勘違いしている人々の対応。	子ども(乳幼児)など授乳や夜泣きがあったので最初は別に部屋を設け、途中からは子どもとその親用に子ども部屋を作った。	備蓄していた毛布、だるまストーブ。 備えておけばよかったもの; 発電機。
16	宮城県	曹洞宗	照源寺	特に苦労と感ずる間もなく夢中でした。	子どもさんは一人でしたが、病気を抱えた年配の方が何人かおられたので、体調が心配で声かけだけですがしておりました。	ガスコンロ、トイレトーパー、懐中電灯、乾電池、米(玄米ではなく白米)、毛布、石油ストーブ、インスタントスープ、インスタント味噌汁、インスタントの出汁等。・先ず水です。幸い内は井戸水が出ておりましたので、近隣の方々にも使って頂いて良かったと思います。
17	宮城県	曹洞宗	海蔵寺	食事は朝と夜は当番を決め、昼は支援物資のパン、おにぎりを各自取る。仮設トイレが設置されるまでは大変だった。ローソクでの生活は火災に注意を払う。	子どものミルクの確保。お湯の準備等。高齢者の安眠を気遣い、皆の協力をお願いした。	ローソク、缶詰、懐中電灯、水類、布団、毛布。

18	宮城県	曹洞宗	青龍寺	1 週間目位から葬儀が切れることなく続いた。一生懸命「お知らせ」を聞き引導を作り、避難所においては明るく振る舞う。この連続(昼夜を問わず一緒に生活している)精神的に厳しいものがあったように思う。当時は一杯一杯だったので余り感じなかったが・・・。	常に明るく、前向きな姿勢を示し、誹謗や中傷は極力聞かないように努め、良かったことや嬉しかったことは、必要以上に誉め喜ぶというスタンスを心がけた。	米(30 kg)と水(1.5ℓ×30本)は備蓄してあって良かった。ポリタンク(水用)は2つあったが、実際にはもっと沢山必要となった。旧式石油ストーブはあったが、一酸化炭素中毒が怖いので使わなかった。地震後直ぐに風呂に水を溜めた。トイレに使えて良かった。
19	宮城県	曹洞宗	鳳寿寺	1, 食事を作るガス(プロパン)不足 2, トイレ用の水を井戸から運ぶ	高齢者の障がい者(1名)には、10代~20代を世話係としてはりつけた。	1, 米(前年に、田の耕作者から寄附されていたものを蓄えていた。 2, 飲料水を常に100名分は用意する必要がある。
20	宮城県	曹洞宗	法昌寺	水、食糧、(照明)、ガソリンの確保	子どもと高齢者への配慮	LED ライト、石油ストーブ、井戸
21	宮城県	曹洞宗	清水寺	松風寺は本堂平成16年度新築。控え室、台所、トイレのみ。お茶道具が備えてあるだけ。何も無いところに被災しなかった家から布団、毛布、着替え、食品、米などお寺に運んで来てくれたので、物資が届くまで一時を凌ぐ避難所は寺役員、行政区長、中心となり運営にあたった。	未記入	未記入

22	宮城県	日蓮宗	法音寺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や自衛隊などが、避難所であることを認識してもらうこと、支援をもらうことが困難</li> <li>・いつまで続くかわからないままで、食料・水・トイレ・ガソリンなどの物資の調達之苦労</li> <li>・避難所の統廃合・整理・避難民の仮設住宅等への移動を、適宜行って欲しかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が多かったので、運動不足やエコノミー症候群にならないよう、運動の時間を確保した</li> <li>・掃除の時間を設け、皆で体を動かした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米や味噌・塩などの食料は普段から多めに確保していた</li> <li>・行事や供養で、人が大勢集まるため、駐車場・広間・調理器具・食器・座布団など日頃から準備</li> <li>・プロパンガス・汲み取り式トイレ・だるまストーブ・ローソク・カマド・薪など旧式の設備</li> <li>・最小限の電源を確保するソーラー電源・非常薬などがあればよかった</li> </ul>
23	富山県	日蓮宗	真成寺	お寺の制度が確立しておらず、何をすることも大変でした。時事に必要な事物が変わるために、その都度対応に追われました。	未記入	未記入
24	岩手県	日蓮宗	本増寺	電気、水が無いので、トイレの洗浄が難しい。食事は1週間後位に隣町の商店が少しずつ復興し、購入出来た。運営ルールは食事係、掃除、健康チェック、行政との連絡等係を決めた。	老若男女が同日に寝起きするときもあった。外国人(台湾のレスキュー隊も2泊)の宿泊もあったが、日本人と和気藹々でした。	米、味噌、梅干し、海苔などは備蓄していて助かった。
25	宮城県	臨済宗 妙心寺派	慈恩院	運営上の苦労は無かった。被災者の方々は良識があり、協力的であった。	子どもたちが長期の避難生活と大人の気遣いにより、我が儘になり、反抗したり、学校に寝坊して遅れるようになった。そこで、早起きさせるため全員で朝のラジオ体操をするようにした。	石油ストーブが非常に役立つ。(暖房と調理) 携帯ラジオ

27	福島県	臨済宗 妙心寺派	龍光寺	食糧、寝具、衣類の不足。(水、ガス、ガソリンが無い場合)		井戸水(トイレ用)で水洗トイレが使用できた。古着が役に立った。
29	宮城県	臨済宗 妙心寺派	松林寺	トイレが大変でした。	未記入	離島のため、個人的に灯油をドラム缶で買っているのので、ストーブ等に使えた。
30	宮城県	臨済宗 妙心寺派	傑山寺	寒かったので暖を取ること。暖かい食事の支給など。	食料の配給での順番	石油ストーブ
32	岩手県	臨済宗 妙心寺派	華藏寺	お寺に避難されている方が200名。周辺で自宅避難の方が300名。初期において公的な食糧支援は200名でありました。それに寺院、友人からの支援物資を加えて対応していましたが、その分配は住職にして欲しいと要望があり、行ってきましたが、同時に葬儀等の勤めもあり、苦勞とはいいいませんが、厳しかったです。	福祉施設の入所者は、職員さんが対応して頂きましたが、乳幼児にはミルク、オムツ等年齢にジャストフィットするものが少なく、支援体制が整うまで大変だったかもしれません。	田舎にあったお陰で、水、ガスはある程度工夫しながら使えたものもあります。指定避難所にはなっていませんでしたが、何かあったら受け入れるものと日頃から話しておりました。大した事はしていませんでしたが、外にあるトイレは汲み取り式のトイレを残していました。
33	岩手県	臨済宗 妙心寺派	慈恩寺	幸いに寺の近隣の方々ばかりで気心が知られており、苦勞せず済んだ。運営もすべて任せただけで、むしろこちらが世話になった気がする。	これも皆さんで協力し合い、お互いに助け合って避難期間中病人を出すことなく過ごせた。	寝具類(少年少女一泊研修会用)、発電機は是非備えて置きたい。電気不要のストーブ。いずれ電気、水道、ガスがストップすると現代社会では何も使えないので、それに対応できるものを考えないといけない。
34	宮城県	曹洞宗	法山寺	総じて	高齢者、乳児、子供、中国人に対し配慮した	水、ストーブ

## 2. 東日本大震災に際しての被災・活動状況について

2-5-6 避難者の受け入れや助け合う際に、ご自身の信仰心はどのように影響したとお考え  
 でしょうか？

2-6 貴寺院で、「直接被災された方々の受け入れ」という役割以外に、直接的または間接  
 的な支援の役割を担われたことがあればお書きください。  
 (炊き出しのみの受け入れ、ご遺体の安置、ボランティアでの法要など)

・皆さまの経験を教訓として他の寺院へ災害時の備えとして伝えたいこと、ご提案などをお書き  
 ください。また、被災当時から今日まで苦勞されたことや、伝えたいエピソードなどあればお書  
 きください。

No	都道府 県	宗派	寺院名	2_5_6 避難者の受け入れ や助け合う際に、ご 自身の信仰心はど のように影響したと お考えでしょうか？ (記述)	2_6 「直接被災された方々の 受け入れ」という役割以 外に、直接的または間 接的な支援の役割を担 われたことがあれば (記述)	皆さまの経験を教訓として他 の寺院へ災害時の備えとし て伝えたいこと、ご提案など をお書きください。 また、被災当時から今日まで 苦勞されたことや、伝えたい エピソードなどあればお書き ください。(記述)
1	岩手県	高野山 真言宗	釜石教会 (駒木山 不動寺)	相手の方の宗 教・宗派に対し、 より寛容になれ た。大変なときだ からこそ、助け合 うのに超宗派で 支え合う必要性を 感じた。自分自身 の信仰心は、深 まるという表現よ りはキャパシティ が広がった気が する。	・JOCS(キリスト教海 外医療協会)と淀川キ リスト教病院スタッ フに宿舎と食事を提供し た。ドクターの常宿に 約2ヶ月なり、当教会 を拠点にドクターは避 難所の巡回診療等を行 った。淀川キリスト 教病院とは3ヶ月協力 関係を続ける。・スピ リチュアル・ケアワー カーの釜石での最初 の受け入れ施設とな った。(その後プロテ スタント→カトリックへ移 動される)。・高野山 真言宗の岩手県にお ける災害対策前線基 地として、お坊さんボ ランティアの受け入 れ。(現在は弱者支援 に重点を置いている)	未記入

2	宮城県	浄土宗	西念寺	未記入	未記入	※震災中は大変お世話になり、心より感謝申し上げます。皆様のご活動に敬意を表し、今後のご活動にご期待申し上げます。
3	岩手県	浄土宗	大念寺	未記入	ご遺体の安置、約 600 体。法要支援の受け入れ、配分。ボランティアの受け入れ。	未記入
4	宮城県	浄土宗	定迎寺	仏が我々を救うと同じで困った人を救うだけ。	当時何をしたら良いか分からなかったし、移動するのにもガソリンがなかった。	災いとは何時やってくるかもしれない。心をしっかりすること。
5	宮城県	浄土宗	浄念寺	法然上人の共生きのお念仏の信心によって、心豊かに接することができた。	小粥の炊き出し、お供物の華志、果物等法事でいただいたもので 2、3 日間食いつなぐことができた。平常時の保管場所等、1 週間分位の蓄えが必要。	地区ごとに生活物資の平常時の食庫への備蓄。水、発電機等の用意。通信手段、ネットワークの整備、交通遮断に伴う通信手段の確保。交通ルートの確保。急病患者への対応等地区あげての対応の整備。
6	茨城県	浄土宗	香仙寺	施し合う心	同じ被災した状況の中で、何が必要かを考え、陸前高田市に物資の輸送をした。合同葬儀。	地域全体が被災している中では、寺の存在というのは(特に僧侶)大きいと痛感しました。一人一人が当日の話をしますが、それを聞く人が必要なのだと感じました。又、老人の方などは、気持ちが動転していましたので、声をかける(大丈夫ですか?)、それだけでも違う感じがしました。被災すると被害者意識が出てくるようで(一般の人は)同じ立場ということを理解させるのが大変でした。被災者が二分割されたように思います。(何かしてもらうのが当然という人と、何かしなくてはと言う人)

7	宮城県	真言宗 智山派	普誓寺	被災して、現状に対してどうするか、どう向き合い、一日一日を過ごすことに他なく、それが信仰心に影響したがどうかより、置かれた現状から如何に立ち直るか、明日をどうするか、想像を超える出来事に、人として良心を学べた。	震災後、近くの避難所へのボランティアでの読経。	被災当時から一年、仮設住宅へ落ち着くまでの数週間の人の心の状態や言葉には、表現しにくい感動と落胆を経験したことを教化に生かしていきたいと考えている。復旧はある程度落ち着いて、これからが本当の復興となる始まりなので、復旧期に多くの方々より支援を頂いたことに報いることが、復興に繋がるものと信じて頑張るのみです。今後もよろしくお願い申し上げます。合掌
8	宮城県	真言宗 智山派	光明寺	未記入	寺の裏山の火災により避難指示があり、避難所としての役割を果たすことは不可能でしたので、被災された方々には地元の小学校体育館に集まりました。当山としては、缶詰、米等の食料を提供させて頂き、在宅避難の方々には蠟燭をお配り致しました。境内地の一部を提供し、亡くなられた方々を土葬という形で埋葬し、住まいを流出されたご遺族には、通夜のための部屋を使っただけ、泊まって行かれた事もありました。お位牌を流出された全戸に、お寺から新しいお位牌を無料で作らせて頂きました。	当山にとって、全く予想もなかった裏山の火災は離島と言うこともあり、消火作業が思うように進まず、一週間ほど不眠不休の不安な日々でした。しかし、お檀家さん達の助けで、ご本尊様等他数体の仏様を無事搬出する事ができ、又菩提寺のため、必死で消火作業にあたって下さったおかげで、火災から逃れる事ができました。震災直後の厳寒の下、ご自宅の瓦礫の中から御先祖様のお位牌を必死に探すお姿が、今でも忘れられません。お檀家さんの菩提寺やご先祖様への温かい思いに、有り難いことだと実感しております。

9	岩手県	真言宗 智山派	金剛寺	第一に命を救うことが大切だったと 思っていたので、 それは宗教家、 一般人関係ない と思います。	死者、行方不明者の 供養という点では、全 国各地からの来山者 もあり多く行われた。 お骨の仮安置も行っ た。	地区住民からは避難所と して大変期待されるので、 必要最小限の備蓄(米、 水、毛布、燃料等)が必 要。過去帳等は今回発見 でき幸いだったが、デー タを自坊だけでなく、他 でも管理できるようにし なければいけないと思 う。
10	岩手県	真言宗 智山派	長圓寺	非常時の助け合 い精神が主で、 信仰心よりお寺 の役割からの活 動。	数週間遺体安置。数 ヶ月の遺骨安置。	被災して3日間は支援無 しで生活すると想定し、必 要であろう物を備えてお く事が大切。
11	福島県	真宗 大谷派	麟生寺	真宗の仏教の教 えに触れていた 者として、少な からず頂いた信 心によって動か されてきたと感 じる。	本山別院からの支 援物資受付の窓 口。	福島は原発事故による放 射能の影響が今も続い ています。そして、それは 地域の人々も家族も分断 するという悲しい現実を もたらしました。今回震 災で明らかにされた原 発について、皆さんに感 心を持って頂きたい。そ して、日々苦しんでいる 福島を忘れないで欲 しい。
13	宮城県	曹洞宗	龍澤寺	助け合うという のが当然なので、 信仰がどうの…、 という問題では なかったと思う。	直接的には葬儀の無 料執行、慰霊法要、 仮埋葬での読経、 回向など。 又、買い出しに出 た。ガソリン不足 だったので。	お寺は準公共施設。最 低でも2日～3日は 過ごせるようにし ておきたい!! 食 料、電気、ガス、 水道、電気は発 電機又はソーラ ー。衣料毛布、 紙トイレ、ペ ーパー、仮ト イレなど。
14	岩手県	曹洞宗	龍昌寺	大津波という非 常時にお寺とい う環境の中で、 助け合い肩を寄 せあって明日を 信じて頑張った 。	ボランティアで毎 朝10日間にわたり、 ご遺体の安置所 に枕経に通いま した。副住職は地 区の人達と汗を 流しました。	備品備蓄も大切ですが、 このたびの大災害で 地震保険の重要な ことが強く認識 し(無加入なので) ました。灯油ガ ソリンが不足し ていた時期、寺 院よりのボラン ティアで頂いた こと有り難く思 いました。全日本 仏教会様には温 かいご支援有り 難うございました。

15	宮城県	曹洞宗	保福寺	自利利他行の実践	災害直後のご遺体の安置。現在でもボランティアでの法要は進行中です。	未記入
16	宮城県	曹洞宗	照源寺	信仰心という大きなものではありません。困っているときは自分で出来ることをするだけです。そして、避難の方々とは、お世話するのではなく共に生きる、そんな気持ちだったと思います。	寺にある物資(毛布等)を他所に送りました。衣類等は数に限りがありましたので、お寺に避難しておられた方々に使って頂きました。遺骨の安置は、お檀家様以外の方もお預かり致しました。	うちに避難された方々は30名から、日がたつうちに人数が減りまして、最後は3名でした。きれい事に聞こえるかもしれませんが、寺にいる私どもの方が、彼らに助けられ励まされたと思います。細かいことを申せば色々ありますが、皆さんとてもいい方でした。あの方々がおられたから、あの状況も切り抜けたと思います。
17	宮城県	曹洞宗	海蔵寺	常に非常時にはお寺の果たさねばならない役割について、寺族とも話し合っており、混乱はなかった。信仰心と言うよりも、人間として当たり前の行動と思う。	ジャズのコンサート、雅楽のコンサート関係を通して皆が元気なれるよう企画した。	日本中どこに住んでいても、いつも大災害に遭う可能性がある。いつでも自分がどう行動するか、家族、地域住民も良く話し合い、備えが必要であろう。
18	宮城県	曹洞宗	青龍寺	4日目の朝より、本堂にて朝課を行い、朝課後に毎日少しずつお話をした。前向きにモチベーションを保てることと、お互いの思いやりの心の大切を大きなテーマの柱で行った。避難所内では特にトラブルもなく、皆さん比較的穏やかに過ごせた様子でした。	近所の方に食事を供給しました。(ライフラインが整わなかったため)避難所の方を含め常時50~60食を作っていました。ボランティアに来た方の宿泊も提供しました。全国の法友等から送られてきた物資を、必要な避難所に配布しました。	このようなときは、宗教者は確実に頼られます。真剣に且つ慎重に、そして即断することも求められます。自分が今、何をすべきか？を考える。その繰り返しでした。

19	宮城県	曹洞宗	鳳寿寺	寺檀互いに知り合っていたので特にはない。皆が夢中だったので特に意識はしなかった。	副住職が宮城県曹洞宗青年会として法要。又、青年会議所の事務局長だったので、配水、炊き出しを七里ガ浜全域で、ほぼ毎日とっていいくらい行っていた。	避難の心を落ち着かせるには、先ず、1 明るい 2 空腹を満たす 3 暖かい。この三点に如何に前もって備えるかだと思う。とにかく安心感を持たせ、苛立ったり、不満をぶつけ合う心を、穏やかにしないと、集団での寝泊まりは安定しない。難しいのは薬品の備えであろう。前もって行政との相談が必要。
20	宮城県	曹洞宗	法昌寺	ご本堂での7日毎の供養への参列により、生かされた事への感謝、復興への誓いを新たに認識し合えた。	ご遺骨の受け入れ。	平時はなく、常に有事である。「備えよ常に。」
22	宮城県	日蓮宗	法音寺	・普段は意識しないながらも、菩薩行や布施行、利他行・博愛精神などの意識が根底にあり、非常時に救済を求めてくる人を自然に受け入れた ・極限状態に身を置いたなかで、人を生かすことに尽力することや、犠牲書の供養をすることが自分自身を生かす力にも結び付いたように思う。	・地域の方に対しての炊き出しの拠点となった ・被災地への各種慰問団体の受け入れ ・ボランティアでの仮埋葬(土葬)の際のお勤め ・ボランティアのクラシックコンサート開催 ・仮設住宅への、支援物資の配布やグリーンカーテン設置の、コーディネートと協力 ・子供たちへの学習支援 ・震災復興商品の PR と、積極的な購入 ・これまで実施していなかった、写経会、教養講など座檀家さんが集まる機会を増やし、心のケアをしている ・法要や葬儀などのさ	・寺社仏閣は、震災寺には建物が無事であれば地域の人々が集まり、一時的にでも避難する場所となることが予測される。公益法人としては当然のことと言える。常々その覚悟が必要であろう。・建物が被害を受け、自身が避難者となった場合には、宗教者としての信頼感や顔が広いことなどから、避難者をお世話する立場になり、宗教者ルートで入ってくる支援物資の受け皿となりうる。どんな立場になっても、人に利他行や布施を説くものとしての自覚が肝要である。・支援はピンポイントでスピードがたいせつであることを痛切に感じた。義捐金が、半年後にしか渡らないとか、遅れて届いた支援物資が倉庫に山積みになっていると

					い、住宅事情が悪い ため、お寺でゆっくり 過ごしていくことを勧 めている。	か、物資配布が被災者の 負担になるとか矛盾がみ られた。・生活保護の矛 盾と同様に、外部からの 支援と被災者自立とのバ ランスが重大な問題となっ ている。
23	富山県	日蓮宗	真成寺	朝のお勤めも変 わらず行いまし た。色々な方がい る中で、とりわけ 福島から親戚を 頼って移住された 家族は、元々、同 宗派の信者という 事もあり、結果的 に檀家さんになら れた方もおられま す。 (上求菩提 下化 衆生)無償の慈 悲で活動しまし た。	・先ず、富山は被災地 ではなく、当アンケート の2から5までの問い には適した正確なお 答えができず、申し訳 ありません。 ・岩手や宮城などには 何度となく訪れ、現地 のNPO 団体等と共に 現在も、心のケアや、 目の前で必要とされる ことをできる範囲で行 っています。また、1周 忌となる今年の3/11 には仙台で行われた 追悼式典にて、黙禱 の音頭や励ましの講 演会などをさせて頂き ました。	声を大にして言いたいこと は、「何かやらなきゃ」とか 「何かしなきゃ人でなし」と 思われる・・・そのような感 情で行動された団体や寺 院も多かったように思いま すが、そこからは本当の 支援に繋がりにくいと感じ ました。「大変だ！」と思う 事は大切ですが、例え ば、目の前で転びそうにな った人に「私は何をすれば 良いのでしょうか？」って聞 きますか？おかしいと思 います。体がスッと動き、自 然に手をさしのべると思 いますが。これが自分にでき る支援ではないかと思 います。有事のことを思い、 徒に恐れず、今からできる 備えを公私共に準備する のが肝心です。各寺院 毎、各市町村毎に人と人 のネットワークを確立する 努力が不可欠です。ポ イントはやはり「人」に尽 きるのではないかと 思います。
24	岩手県	日蓮宗	本増寺	檀信徒の区別な く、どなたでも受 け入れるという信 念で活動。避難 者も心置きなく生 活ができたと思 う。	ご遺体の安置。 避難者が帰った後は ボランティアの人達の 宿泊の受け入れ。	突然の災害であり、自分 たちも海岸近くのスーパー より辛うじて帰山したの ですが、津波から逃れてき た人達に対し、無事を喜 ぶと同時に、この人達に 食事、トイレ、寝具、暖房 等をどうすれば良い か・・・と考えなければな らない。又、避難者の名

						前、住所の書き出し(玄関に掲示)等。道路の寸断が致命的。
25	宮城県	臨済宗 妙心寺派	慈恩院	「情けは人のためならず」他人を助けることは、自分を助けることとなることを実感した。助け合いを通じて、人類が共に生きているという信仰心が深まった。	・行政委員となり、地域のお世話と、元住民が戻れる環境を整えている。 ・寺の行事を通して、元住民への連絡、元住民と現住民とのコミュニケーションをはかっている。 ・全国からボランティアに対して、地域の歴史、観光案内をして、継続的に復興支援がなされるように努めている、	・今回の震災では、知っている限りの寺院は救済に努め、大いに貢献した。このことは寺院の公共性を広く知らしめ、寺院の重要性を高めた事となった。 ・被災していない人たち(本山、教区寺院)に被災者(寺院)の心情や現実が理解されず、行事や会議への出席を強要され苦しかった。 ・震災は苦労では無く、与えられた貴重な体験であったと思われる。
27	福島県	臨済宗 妙心寺派	龍光寺	未記入	未記入	天蓋類は地震に弱く危険。
29	宮城県	臨済宗 妙心寺派	松林寺	気持ちを落ち着かせ、安心できること。	町の方の火葬ボランティアに週に二度の割合で当番があり、離島のため出かけるのが大変不便でした。	水の確保、毛布等の備蓄。炊き出し用の道具等。
30	宮城県	臨済宗 妙心寺派	傑山寺	自分が率先して行動するとは思われなかったが、震災に直面し自発的に何でもするようになった。	中学校が避難所となり、最大 400 名の避難民に炊き出しなど運営に当たる。	寺は公的補助を受けられず、再建に困難がある。保険も火災保険加入のみが多く、地震保険に入っても十分な金額がおりない。檀信徒も被災しており、寄付も難しい。
32	岩手県	臨済宗 妙心寺派	華藏寺	御自身の信仰心は分かりませんが、避難された方々からいわれたことは、「お寺で避難生活を送って良かった。厳しい状況の中ではあったけど、仏	自衛隊の方々のテント、炊き出し等への境内の提供。	お寺に何人受け入れられるか、食糧、設備がどうかは関係なく、震災等の発生直後においては、とにかくお寺を頼りに来る方々は、一旦でも受け入れるべきだと思います。

				さま、ご先祖様に見守られていると言う安らぎのようなものを感じました」と…。これはお寺が避難所という最大の良さだと思います。		
33	岩手県	臨済宗 妙心寺派	慈恩寺	特にこちらから積極的な事は行わず、ただ一緒にいる事に徹底した。ただ自分さえ良ければという心が生じないよう、すべてのものをみんなで分け合うことだけは事ある毎に話した。	震災直後にご遺体の安置。炊き出しの受け入れ。支援物資の受け入れ。仮設住宅への引き渡し。	何時どこで、どのような災害が起きるかは分かりません。常に門戸を開き避難してこられた場合には、受け入れられるように心しておいて頂きたい。これ以上のものではありません。
34	宮城県	曹洞宗	法山寺	未記入	炊き出しのみの受け入れ、ボランティアでの法要	未記入

### 3 まとめとして

本調査報告では、仏教 NGO ネットワークが聞き取り調査をおこなったものを集計し、テキスト化した。東日本大震災に際しての被災・活動状況についての記述では、被災後の住職としての葛藤や苦悩など日々の取り組みをデータや記述として残すことができたと言える。

#### 1) 被災状況

回答のあった、34ヶ寺の多くでは自坊のみならず近隣の地域全体が大きな被害を受けた。いくつかの寺院は高台にあったため被害を免れたりしたが、本堂の被害や庫裏の全半壊など生活基盤としての機能が損なわれている状況であった。「お寺の玄関前まで津波が来ました。避難していた約40名以上はそのまま避難し、自動的に避難所となった」など切迫した状況が記されている。

#### 2) ライフラインの復旧

一般に、ライフライン復旧には電気、電話、ガス（都市ガス）、水道の順になるといわれている。今回の調査では、電解・ガス・水道・通信手段など早い地域では1週間以内の復旧になっている。一方、2か月3か月、ガスでは6か月の期間要した地域もあった。

今回の調査では、ガスに関してはプロパンガスの使用地域もあったためか、ガスの復旧に関して未記入の回答もみられた。

いずれにしても、震災後1週間以上はライフラインが復旧しないことを見越した準備が必要となる。

#### 3) 外部からの支援

自衛隊などの公的支援は3日以内に開始され1週間以内には7割以上の寺院地域で実施されている。一方、民間ボランティアでは支援開始にばらつきがあるが2週間以内に半数の寺院に支援が入っている。また、宗派関係では2週間以上かかったケースが過半数を超えている。

外部からの支援では、最初に自衛隊など公的な支援が入り、その後民間ボランティア団体の支援につながっていく。宗派の支援では一定の支援体制が確立されてからスタートしているケースが考えられる。対応の遅さは今後の課題である。宗派によっては震災後4か月たってから支援が開始されたという回答もあった。

#### 4) 被災者の受け入れ人数・期間

回答のあった寺院では、被災者を80人以上、宿泊者を40人以上受け入れるなどのケースが半分以上あった。最大では530名の被災者を受け入れた寺院があるなど、改めて寺院の地域に果たす機能の重要性が認識できた。

寺院が避難所として開設されていた期間は、平均で54.8日、最長152日であった。長期間かつ多くの被災者の受け入れには、地域や外部の協力と被災者の自治力が求められる。こうした状況下での住職をはじめ受け入れ側の関係者の苦勞が読み取れた。

#### 5) 避難所運営・弱者の受け入れ

まずは、食料の確保が大きな課題であった。一定程度の備蓄があっても受け入れ人数や気候、ライフラインの被害により十分機能しなかったケースも見られた。ある寺院では「食事・睡眠・トイレ・ルール作り・行政との調整・心の問題のすべて、医薬品の不足」と避難所を運営するという非日常の状態を受け入れなければならない不安を抱えて

いた記述もあった。高齢者や子どもに対しては個別に人を配置し、生活リズムを整えるためにラジオ体操を取り入れるなど工夫も見られた。幼児に関してはミルク・おむつなど普段の備蓄では対応できないものもあり、支援が十分に機能していなかったケースもあった。

#### 6) 備蓄・準備

季節柄もあるが、石油ストーブ（電気を使わないもの）、普段から大目に食料を確保しておいたケースもある。寝具類も、宿泊研修用のものが備わっていたため対応できた寺院や、水の確保では井戸などの活用も見られた。しかし、「電気、水道、ガスがストップすると現代社会では何も使えないので、それに対応できるものを考えないといけない」という記述もあった。

#### 7) ご自身の信仰心

ある住職は、「本当に何も失ってしまった人達で大きなショックを受けているにもかかわらず、日々の避難生活を助け合って過ごしている姿に感心しました。他の地域から歩いてきてお墓を見に来たり、位牌も流されて何も失ってしまいどうしようと相談に来る人が多かった。先祖に対する思いが強く、お寺としても心の支えにならなければと強く思った。檀家の人達にとってもお寺があることで安心している様子が窺われた」と僧侶のあるべき姿や思いを記していた。

また、宗派を超え「檀信徒の区別なく、どなたでも受け入れるという信念で活動。避難者も心置きなく生活ができたと思う」などの意見や、避難された方々からいわれたことは、「お寺で避難生活を送れて良かった。厳しい状況の中ではあったけど、仏さま、ご先祖様に見守られていると言う安らぎのようなものを感じました。これはお寺が避難所という最大の良さだと思います」とこれまで意識してもなかった役割も見いだされた。

#### 8) 具体的な支援体制

寺院が担った支援の役割を見ると、寺院の持つ特性を生かした支援を行っていることがうかがえる。具体的な例としては次のとおりである。

- ・ 災害対策の前線基地（自衛隊など）
- ・ ご遺体の安置
- ・ 炊き出し
- ・ 読経
- ・ 法要
- ・ 寺に備蓄していた物資の供出
- ・ ボランティアの宿泊受入れ

#### 9) 教訓として

ある回答では、「地域全体が被災している中では、寺の存在というのは（特に僧侶）大きいと痛感しました。一人一人が当日の話をしますが、それを聞く人が必要なのだと感じました。又、老人の方などは、気持ちが動転していましたので、声をかける（大丈夫ですか？）、それだけでも違う感じがしました。被災すると被害者意識が出てくるようで（一般の人は）同じ立場ということを理解させるのが大変でした。被災者が二分割されたように思います。（何かしてもらおうのが当然という人と、何かしなくてはと言う人）」と寺院の役割だけでなく受け入れる側の覚悟が必要という意見もあった。

また、「うちに避難された方々は30名から、日がたつうちに人数が減りまして、最後は3名でした。きれい事に聞こえるかもしれませんが、寺にいる私どもの方が、彼らに

助けられ励まされたと思います。細かいことを申せば色々ありますが、皆さんとてもいい方でした。あの方々がおられたから、あの状況も切り抜けられたと思います。」など、住職だけが表に出るのではなく、被災者と共に助け合うことの大切さも示唆する回答もあった。

今回の回答を改めて教訓について概観すると、単に食料や燃焼の備蓄設備の充実だけでなく、普段からの檀家とのつながり、地域社会、地域住民とのつながりを築いていくことが災害時に役立つ重要な考え方として読み取ることができた。

最後に、ご回答いただいた方々へ感謝いたしつつ、一日でも早く日常生活が営まれるよう祈念いたします。

## 資料 被災地寺院の教訓を今後の寺院防災に活かす聞き取り票項目

## 1. 寺院 基本属性について ①

No	ID	氏名	郵便番号	都道府県	住所 1	宗派	寺院名

## 1. 寺院宗派 基本属性について ②

No	ID	宗派	寺院名	TEL	回答者	公開

## 2. 東日本大震災に際しての被災・活動状況について

2\_1 貴寺院および周辺地域の被災状況をお教えてください。(ご記憶の範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお教え頂ければ幸いです)

2\_2 貴寺院のライフラインは何日で復旧しましたか？

(それぞれに日数をお書きください)

1 水道            2 電気            3 ガス            4 携帯電話・通信手段

2\_3 外部からの支援は何日後から始まりましたか？

1 自衛隊など公的支援            2\_民間ボランティア            3 宗派関係

2\_4 貴寺院では、被災された方々を避難所として直接受け入れましたか？

2\_5\_1 受け入れた被災された方々は最も多かった時で何名でしたか？

1 宿泊者数            1 檀家割合 (%)

2\_5\_2 2 開設日            2 閉設日            2 期間

2\_5\_3 避難所としての運営で苦労されたことは何でしたか？

(食事・睡眠・トイレや、運営のルール作り、行政との調整、心の問題など)

2\_5\_4 避難された方々の中で、特に弱者(子ども、高齢者、障がい者、外国人など)に対して気遣いや配慮されたことがあればお書きください。

2\_5\_5 この度のご経験からお寺で備蓄・準備していて良かったもの。または備えておけば良かったものは何でしたか？

2\_5\_6 避難者の受け入れや助け合う際に、ご自身の信仰心はどのように影響したとお考えでしょうか？

2\_6 貴寺院で、「直接被災された方々の受け入れ」という役割以外に、直接的または間接的な支援の役割を担われたことがあればお書きください。(炊き出しのみの受け入れ、ご遺体の安置、ボランティアでの法要など)皆さまの経験を教訓として他の寺院へ災害時の備えとして伝えたいこと、ご提案などをお書きください。また、被災当時から今日まで苦労されたことや、伝えたいエピソードなどあればお書きください。

日本仏教社会福祉学会  
東日本大震災対応プロジェクト委員会  
委員長 藤森 雄介  
渡邊 義昭 関 徳子

---

被災地寺院の教訓を今後の寺院防災に活かす聞き取り票（アンケート調査）  
報告書

2015年3月11日 初版発行  
2015年6月11日 第2版発行

編著者 日本仏教社会福祉学会  
東日本大震災対応プロジェクト委員会

発行者 淑徳大学 藤森雄介研究室